http://www.komakichiku.com/

# ぷらネットこまき

（古牧地区住民自治協議会広報誌）

第151号
古牧だより通算244号

## 新春を迎えて

古牧地区住民自治協議会 会長 塩入 茂

あけましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

古牧地区にお住いの皆様には、旧年中、住民自治協議会の活動に御理解・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

住民自治協議会は住みよい安全と安心のまちづくり、思いやりとふれあいのある地域づくりを目標に日々活動をしております。とりわけ古牧地区の安全を図る上で欠かせないのが北八幡川の水害防止対策です。お陰様で長野市の対策工事は計画的に進捗しており、この冬の渇水期には雨水調整池の掘下げ工事が実施され、下流への負担軽減が図られることになります。また危機管理水位計も今年度中に設置され、内水ハザードマップの活用と併せて北八幡川水系の安全に大変役立つものと思います。

今も続くコロナウィルス感染症は拡大と縮小を繰り返し、その都度、各部会の活動に影響を与えました。特に3年振りの開催を計画しました「ふるさと文化芸能祭」の芸能部門は直前になって中止に追い込まれ、出演予定者共々大変残念な思いをしました。しかし、このコロナ禍の中で実施に漕ぎつけようとした努力は他の活動の参考となり、関係各位に深く感謝をしております。

また、住民自治協議会が発足して15年になるのを記念して、古牧地区散策ガイド「古牧歴史探訪」を発刊しました。古牧郷土史研究会の支援を得て名所・旧跡マップを作成し、併せてウォーキングマップも掲載しました。コロナ禍におけるフレイル予防、健康づくりにも役立つのでガイドマップを手に古牧の歴史に触れてみてください。

結びに、このコロナ禍を一日でも早く克服できるようになること、そして本年が皆様方にとって良き一年になりますことを心より祈念し、新年の御挨拶といたします。

## 災害に備えて ～防災倉庫の視察～

12月7日（水）の総務部会（区長、副区長）で危機管理防災課の中島治氏を講師に招いて、古牧小学校の敷地に設置されています「防災倉庫」の視察を行いました。

視察では、倉庫に保管さてれている備品一覧表リストを基に保管物品の説明があり、その後、倉庫内を内覧しました。

参加者からは、「防災倉庫は誰の権限で使用することができるのか。」などの質問があり、講師からは「災害時に最終的な手段として使用していただくことになる」との説明がありました。

防災倉庫はコンテナ一つですが、食べ物、浄水装置、機材など沢山の物品が保管されていました。この倉庫の物品が活用されないことを願うばかりです。

（総務部会）

## 区の話題 『上高田冬フェス2022』を開催しました

12月3日(土)、区の各種団体のご協力をいただく中で、「もちつき」、子ども会の「スタンプラリー」、夜の「花火打上げ」の3つの催しものを組み合わせた『上高田冬フェス2022』と名付けたイベントを区内の3会場で感染対策を行う中で開催しました。

このイベントは、コロナ禍が3年目になりますが、公民館と育成会が今年度に計画していた納涼祭と運動会の中止を決定したことにより、育成会から「何か子供たちに記憶の残ることをしてあげたい。」という切なる声が上がり、公民館と育成会が一緒になって考えた新たなイベントであります。

当日は、もちつきをするとスタンプがもらえるということで、多くの子供たちが上高田公会堂の前に並び高学年生は3年ぶりの杵の重さを感じ、低学年の子は親と一緒に杵を振りました。

続いて、子供たちは芋井神社に移動して、輪投げ、射的などでスタンプゲットに走り、笑顔あふれる姿を見ることができました。

夕方になり、神社では「上高田太々神楽」の獅子舞があり、みんなで観覧したらいよいよ花火の打ち上げです。

新設となった『南向塚公園イベント広場』を利用して5分程度の花火でしたが、打ち上げの度に、集まった250名余の歓声が上がりました。

好天に恵まれた一日となり、昼間についたお餅と、特製「南向汁」をお土産に皆さんニコニコとして帰路についていました。

各種団体、育成会、公民館のスタッフもつられて笑顔となり久々に区民が一体化できたイベントとなりました。

## 娑婆鉛筆 一人山歩き

私は長野市内に生まれ育ちこれまでに数回の転居・転勤を経て、高齢が進む親族の介護等を予期して、地理的・物理的・生活力等の諸条件を考慮し7年前に転居しました。

転居の翌年公民館報に掲載されたサークルに加入し、地域の様々な方との情報交換によるクオリティライフ(心・技・体)の実現に仕事で培ってきたパソコン及び携帯は役立っており、お付き合いし励まして頂いた方々にありがとうの気持ちです。

それらを使い今の社会環境(新型コロナ感染症)に折り合いをつけて、天候の条件を最優先に2年ぶりに趣味の一つにある一人山歩きを形に残そうと挑戦しました。目的地は往復約10時間(37,302歩)の行程にあり、日頃の身体のケア不足に時々心が折れそうにそのような時には暫し休憩をとり、刻々と変わる天候(曇り・薄陽射し・霧)から池塘(ちとう)のお花畑跡、山頂からの佐渡ヶ島(見られず)・槍ケ岳・八ヶ岳連峰・富士山の眺望、北限地に生息する雷鳥は見らることが無く残念でしたが、心地よい疲労を伴い目的はほぼ達成でき、良い孤独感(生活における健康・趣味・連れ・生活力の維持)の味わいは高齢者のわがままの第一歩かもしれません。

行程に利用した携帯の操作から得る情報の質と量の判断力は、これからの人生百年時代に向かう老化の遅延に必要不可欠なモノとも思います。どんなにAIが進んでもそれは補完的な位置にあり、幸福の実現の過程に起こる喜怒哀楽にコミュニケーションは永遠に必要と思います。 (松坂 廣男)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259−8359・FAX219−1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
■発行者 塩入 茂
■編 集 ぷらネットこまき編集委員会
■印 刷 SR